

PLAGUE MASK & DRESS & HEELS

SEWER AND FASHION

不衛生な環境が生んだ服

SEWER ZINE

Text / Yamaji Sarana & Kojima Sakurumi

Design / Ishii Mei



東京都下水道局では、2018年度に、若者向け東京下水道発信プロジェクト「東京地下ラボby東京都下水道局」を実施しました。
この冊子は、東京下水道の魅力を発信することを目的に、本プロジェクトに参加した大学生が制作したものです。

The spread of sewer

& Improvement of sanitary conditions

下水道の普及と衛生環境の向上

中世ヨーロッパではどのように下水道が普及していったのかを、パリを例に挙げて紹介する。パリで最も古い下水道は1374年に中央市場近くのモンマルトル地区に造られたとされている。1740年頃には環状下水道が完成し、小説家ユゴーは19世紀中頃に「レ・ミゼラブル」の中で226kmの下水道が完成していると記している。しかし、当時の下水道はセーヌ川に直結しており、流れ込んだ下水が川を汚染していた。当然ながら公衆衛生は改善されなかった。

そこで、当時権力者だったナポレオン3世はパリの大改造に乗り出した。下水道が川に直結している構造は変わらないが、

トイレと川とを直接接続せず尿尿については浄化装置に一定期間溜めてから流すという方法を採用した。その後、1865年にはセーヌ川右岸で下水処理の実験が始まり、その後本格的な下水処理が行われるようになった。1889年には5年以内に市内全域の下水処理が行われるよう法律が制定され、同時にトイレの水洗化も義務付けられた。1930年には新たな下水処理場が計画され、以降衛生環境の整った現代に至っている。

参考文献：パリの下水道の歴史
(<http://www.21water.jp/k1/dw/paris/>)

ENVIRONMENT 中世ヨーロッパの悲惨な環境



中世ヨーロッパでは窓から排泄物が投げ捨てられていた。中世から近世にかけての数百年間、パリの路上には人や動物の糞尿があふれ、腐った食品のくずが散乱し、セーヌ川には死んだ牛や豚の臓物や血が途切れることなく流れ込んだ。うっかり道の端を歩こうものなら、頭上から容赦なく尿尿がぶちまけられた。街は悪臭に満ち、それは王宮にまで及んだ。ひとたび疫病が発生するや、あっという間にパリを席卷し、数千数万の人々の命を奪った。

ドレスやヒールに始まり、香水や日傘、シルクハットやマントもこうした環境のために発達していったとされている。

HOOP SKIRT

隠すから魅せる服

立ったまま廊下や部屋の隅、庭の茂みで用を足しやすいようにとの配慮から生まれたのがこのフープスカートとされている。排泄している最中に周囲から見られないように、フープスカートという形状の服で隠しながら排泄していたとされている。1658年に書かれた本には、排泄された便は従者によって投げ捨てられ、舞踏会に参加した女性が、庭の鉢植えに立ち小便をしたという記述がある。また同じころの作法書にも、「尿意を感じたらすぐさま放出すべし」と書かれている。形状としてはAラインのように広がっており、下にクリノリン等の傘のような骨組みを入れて膨らませおリスカートの中に空間を生むことによって服の汚れも最小限に抑えることができるよう考慮されている。

HEELS

避けるために高くなった靴

街中にうず高く積もった汚物を避けるために、ハイヒールやブーツなどの丈の高い靴が考案されたと言われる。現在ハイヒールは女性の履物として知られているが、当初は、環境に良くない汚物の散乱する道路を歩くための男性の履物だった。今ではおしゃれを楽しむために履かれている。なお、姿を消したが靴の上に履く靴等も利用されていたようだ。

PLAGUE

独特なマスク

ペストという感染症を治す専門のペスト医師が感染しないために用いていた独特な形のマスクがペストマスクである。この鳥の嘴のようなペストマスクは、ガスマスクのようなものだ。長い嘴の中に香水やハーブを詰めて、瘴気（悪い空気）を追い出すという理屈のもとに考案された。いまはサバゲーで着用する人がいたりコスプレの衣装として使用する人もいる。

